若紫

❶日も　係助（類例）
いと　副
長き　形（ク・体）
に、　接助（添加）
つれづれなれ　形動（ナリ・已）
ば、　接助（順確）
夕暮れ　格助（同格）
の　格助（連体）
霞み　動（マ四・用）
たる　助動（存・体）
に　格助（対象）
紛れ　動（ラ下二・用）
て、　接助（単純）
か　格助（連体）
の　格助（連体）
小柴垣　格助（連体）
もと　格助（場所）
に　格助（場所）
立ち出で　動（ダ下二・用）
給ふ。　補動尊（八四・終）　↓光源氏
❷人々　係助（取立）
は　動（サ四・用）
帰し　格助（連体）
の　格助（連体）
給ひ　補動尊（八四・用）　↓光源氏
て、　接助（単純）
惟光朝臣　格助（相手）
と　動（カ四・用）
のぞき　補動尊（八四・已）　↓光源氏
給へ　接助（順確）
ば、　副
ただ　格助（連体）
こ　格助（連体）
の　格助（連体）
西面　格助（場所）
に　副助（強意）
しも、　動（ワ下二・用）
持仏　補動謙（ラ四・用）　↓持仏
据ゑ　接助（単純）
奉り　動（ハ四・体）
て　尼　助動（断・用）
行ふ　助動（詠・終）
なり　❸簾　副
けり。　少し　動（ガ下二・用）
上げ　接助（単純）
て、　花　動謙（ラ四・終）
奉る　↓持仏
め　助動（推定・終）
り。　❹中　格助（連体）
の　格助（対象）
柱　格助（連体）
に　動（ワ上一・用）
寄りゐ　接助（単純）
て、　脇息　格助（連体）
の　格助（場所）
上　格助（場所）
に　経　格助（対象）
を　動（カ四・用）
置き　接助（単純）
て、　副
いと　形動（ナリ・用）
悩ましげに　動（ワ上一・用）
読みゐ　助動（存・体）
たる　尼君、ただ人　格助（引用）
と　動（ヤ下二・未）
見え　助動（消・終）
ず。　❺四十余　副助（程度）
ばかり　助動（断・用）
に　接助（単純）
て、　副
いと　形（ク・用・ウ音便）
白う　形動（ナリ・用）
あてに　動（サ下二・用）
痩せ　助動（存・已）
たれ　接助（逆確）
ど、　形動（ナリ・用）
つらつき　格助（連体）
ふくらかに、まみ　格助（連体）
の　格助（連体）
ほど、　格助（連体）
髪　格助（主格）
の　形動（ナリ・用）
うつくしげに　動（ガ四・未）
そが　助動（受・用）
れ　助動（存・体）
たる　係助（類例）
末　副
も、　形（ク・体）
なかなか　長き　格助（比較）
より　係助（強意）
も　形（ク・用・ウ音便）
こよなう　形（シク・体）
今めかしき　終助（詠嘆）
もの　格助（引用）
かな、　形動（ナリ・用）
と　動（マ上一・用）
あはれに　補動尊（八四・終）
見　↓光源氏
給ふ。

❻清げなる　大人　二人　ばかり、　さては、童べ　ぞ　出で入り　遊ぶ。　❼中
形動(ナリ・体)　副助(程度)　副助(程度)　接　係助(強意)(係)　動(ラ四・用)　動(バ四・体)―(結)

に、　十　ばかり　に　や　あら　む　と　見え
格助(場所)　副助(程度)　助動(断・用)　係助(疑問)(係)　補動(ラ変・未)　助動(推・体)―(結)　格助(引用)　動(ヤ下二・用)

て、　白き　衣、　山吹　など　の　萎え　たる　着　て
接助(単純)　形(ク・体)　副助(婉曲)　格助(同格)　動(ヤ下二・用)　助動(存・体)　動(カ上一・用)　接助(単純)

走り来　たる　女子、　あまた　見え　つる　子ども　に　似る
動(カ変・用)　助動(完・体)　副　動(ヤ下二・用)　助動(完・体)　格助(比較)　動(ナ上一・終)

べう　も　あら　ず、　いみじく　生ひ先　見え　て、
助動(当・用・ウ音便)　係助(強意)　補動(ラ変・未)　助動(消・用)　形(シク・用)　動(ヤ下二・用)　接助(単純)

うつくしげなる　かたち　なり。　❽髪　は　扇　を　広げ　たる
形動(ナリ・体)　助動(断・終)　係助(取立)　格助(対象)　動(ガ下二・用)　助動(存・体)

やうに　ゆらゆらと　し　て、　顔　は　いと　赤く　すりなし　て
助動(比・用)　副　動(サ変・用)　接助(単純)　係助(取立)　副　形(ク・用)　動(サ四・用)　接助(単純)

立て　り。
動(タ四・命)　助動(存・終)

❾「何ごと　ぞ　や。　童べ　と　腹立ち　給へ　る
終助(念)　係助(疑問)(係)→(省)　格助(相手)　動(タ四・用)　補動(尊)(八四・命)　助動(完・体)

か。」　とて、　尼君　の　見上げ　たる　に、　少し　おぼえ　たる　ところ　あれ　ば、　子　な　り　と　見
係助(疑問)　格助(引用)　格助(主格)　動(ガ下二・用)　助動(存・体)　格助(比較)　副　動(ヤ下二・用)　助動(存・体)　動(ラ変・已)　接助(順確)　助動(断・体・撥音便無表記)　助動(推定・終)　格助(引用)　動(マ上一・用)

尼君→少女

給ふ。　❿「雀　の　子　を　犬君　が　逃がし　つる、　伏籠　の　うち　に　籠め　たり　つる　ものを。」　とて、　いと
補動(尊)(八四・終)　格助(連体)　格助(対象)　格助(主格)　動(サ四・用)　助動(完・体)　格助(場所)　動(マ下二・用)　助動(存・用)　助動(完・体)　終助(詠嘆)　格助(引用)　副

→光源氏

口惜し　形(シク・終)
と　格助(引用)
思く　動(カ四・命)
り。　助動(存・終)

⑪こ　の　格助(連体)
ゐ　動(ワ上一・用)
たる　助動(存・体)
大人、「例の、　格助(比喩)

心なし　の、　格助(主格)
かかる　動(ラ変・体)
わざ　を　格助(対象)
し　動(サ変・用)
て　接助(単純)
さいなま　動(マ四・未)
るる　助動(受・体)

こそ、　係助(強意)(係)
いと　副
心づきなけれ。　形(ク・已)―(結)
いづ方　く　格助(方向)
か　係助(疑問)(係)
まかり　動(ラ四・用)　少納言の乳母→少女
ぬる、　助動(完・体)―(結)

いと　副
をかしう　形(シク・用・ウ音便)
やうやう　副
なり　動(ラ四・用)
つる　助動(完・体)
ものを。　終助(詠嘆)
烏　など　副助(例示)
も　係助(強意)

こそ　係助(強意)(係)
見つくれ。」　動(カ下二・已)―(結)
とて　格助(引用)
立ち　動(タ四・用)
て　接助(単純)
行く。　動(カ四・終)
⑫髪　ゆるるかに　形動(ナリ・用)
いと　副

長く、　形(ク・用)
めやすき　形(ク・体)
人　な　助動(断・体・撥音便無表記)
めり。　助動(推定・終)
⑬少納言の乳母　と　格助(引用)

ぞ　係助(強意)(係)
人　言ふ　動(ハ四・終)
める　助動(推定・体)←(滅)
は、　係助(取立)
こ　の　格助(連体)
子　の　格助(連体)
後見　なる　助動(断・体)
ぐし。　助動(推・終)

⑭尼君、「いで、　感
あな　感
幼　形(ク・語幹)
や。　間助(詠嘆)
いふかひなう　形(ク・用・ウ音便)
もの　し　動(サ変・用)
給ふ　補動(尊)(ハ四・体)　尼君→少女
かな。　終助(詠嘆)

おの　が　格助(連体)
かく　副
今日　明日　に　格助(時)
おぼほゆる　動(ヤ下二・体)
命　を　格助(対象)
ば、　係助(強調)
何　と　格助(引用)

も　係助(強意)
思し　動(尊)(サ四・用)　尼君→少女
たら　助動(存・未)
で、　接助(打消)
雀　慕ひ　動(ハ四・用)
給ふ　補動(尊)(ハ四・体)　尼君→少女
ほど　よ。　間助(詠嘆)
罪

得る　動(ア下二・体)
こと　ぞ　終助(念)
と　格助(引用)
常に　副
聞こゆる　動(謙)(ヤ下二・体)　尼君→少女
を、　接助(逆確)
心憂く。」　形(ク・用)
とて、　格助(引用)

「こち　や。」　間助(呼)
と　格助(引用)
言く　動(カ四・已)
ば、　接助(順確)
ついゐ　動(ワ上一・用)
たり。　助動(完・終)
⑮つらつき　いと　副

らうたげに　て、　眉の　わたり
形動(ナリ・用)　接助(単純)　格助(連体)

うちけぶり、いはけなく　かいやり　たる
動(ラ四・用)　形(ク・用)　動(ラ四・用)　助動(存・体)

額つき、髪ざし、いみじう　うつくし。
形(シク・用・ウ音便)　形(シク・終)

⑯ねびゆか　む　さま　ゆかしき　人
動(カ四・未)　助動(婉・体)　形(シク・体)

かな、　と　目　とまり　給ふ。
終助(詠嘆)　格助(引用)　動(ラ四・用)　補動尊(八四・終)
↓光源氏

⑰さるは、　限りなう　心　を
接　形(ク・用・ウ音便)　格助(対象)

尽くし　聞こゆる　人に、　いと　よう　似　奉れ
動(サ四・用)　補動謙(ヤ下二・体)　格助(比較)　副　副　動(ナ上一・用)　補動謙(ラ四・命)
↓限りなう心を尽くし聞こゆる人　↓限りなう心を尽くし聞こゆる人

る　が、　まもら　るる　なり　けり、　と　思ふ
助動(存・体)　格助(主格)　動(ラ四・未)　助動(自・体)　助動(断・用)　助動(詠・終)　格助(引用)　動(八四・体)

に　も　涙　ぞ　落つる。
格助(原因理由)　係助(強意)　係助(強意)(係)　動(タ上二・体)―(結)

⑱尼君、髪　を　かき撫で　つつ、「梳る　こと　を　うるさがり
格助(対象)　動(ダ下二・用)　接助(並行)　動(ラ四・体)　格助(対象)　動(ラ四・用)

給へ　ど、　をかし　の　御髪　や。　いと　はかなう　ものし
補動尊(八四・已)　接助(逆確)　形(シク・終)　格助(連体)　間助(詠嘆)　副　形(ク・用・ウ音便)　動(サ変・用)
尼君→少女

給ふ　こそ、　あはれに　後ろめたけれ。　かばかり　に　なれ
補動尊(八四・体)　係助(強意)(係)　形動(ナリ・用)　形(ク・已)―(結)　副　格助(変化)　動(ラ四・已)
尼君→少女

ば、　いと　かから　ぬ　人　も　ある　ものを。　故姫君　は、　十
接助(順確)　副　動(ラ変・未)　助動(消・体)　係助(類例)　動(ラ変・体)　終助(詠嘆)　係助(取立)

ばかり　にて　殿に　おくれ　給ひ　し　ほど、　いみじう
副助(程度)　格助(時)　格助(対象)　動(ラ下二・用)　補動尊(八四・用)　助動(過・体)　形(シク・用・ウ音便)
尼君→故姫君

もの　は　思ひ知り　給へ　り　し　ぞ　かし。　ただ今
係助(取立)　動(ラ四・用)　補動尊(八四・命)　助動(存・用)　助動(過・体)　終助(念)　終助(念)
尼君→故姫君

おのれ　見捨て　奉ら　ば、　いかで　世に　おはせ　む
動(タ下二・用)　補動謙(ラ四・未)　接助(順仮)　副　格助(場所)　動尊(サ変・未)　助動(意・終)
尼君→少女　尼君→少女

と　す　らむ。」　とて、
格助(引用)　動(サ変・終)　助動(現推・体)　格助(引用)

いみじく　泣く　を　見
形(シク・用)　動(カ四・体)　格助(対象)　動(マ上一・用)

給ふ　も、　すずろに　悲し。
補動尊(八四・体)　係助(類例)　形動(ナリ・用)　形(シク・終)
↓光源氏

⑲幼心地　に　も、　さすがに
格助(場所)　係助(類例)　副

うちまもり　て、　伏し目　に　なり　て　うつぶし　たる　に、
動(ラ四・用)　接助(単純)　格助(変化)　動(ラ四・用)　接助(単純)　動(サ四・用)　助動(完・体)　格助(時)

こぼれかかり　たる　髪、　つやつやと　めでたう　見ゆ。
動(ラ四・用)　助動(存・体)　副　形(ク・用・ウ音便)　動(ヤ下二・終)

⑳生ひ立たむ　ありかも　知らぬ　若草　を　おくらす
動(タ四・未)　助動(婉・体)　係助(類例)　動(ラ四・未)　助動(消・体)　格助(対象)　動(サ四・体)

露　ぞ　消え　む　そら　なき
係助(強意)(係)　動(ヤ下二・未)　助動(婉・体)　形(ク・体)—(結)

㉑また　ゐ　たる　大人、「げに。」　と　うち泣き　て、
副　動(ワ上一・用)　助動(存・体)　副　格助(引用)　動(カ四・用)　接助(単純)

初草　の　生ひゆく　末　も　知ら　ぬ　ま　に　いかで
格助(主格)　動(カ四・体)　係助(類例)　動(ラ四・未)　助動(消・体)　格助(時)　副

か　露　の　消え　む　と　す　らむ
係助(疑問)(係)　格助(主格)　動(ヤ下二・未)　助動(意・終)　格助(引用)　動(サ変・終)　助動(原推・体)—(結)

と　聞こゆる　ほど　に、　僧都　あなた　より　来　て、　「こなた
格助(引用)　動謙(ヤ下二・体)　格助(時)　格助(起点)　動(カ変・用)　接助(単純)
↓尼君

は　あらはに　や　侍ら　む。　今日　しも　端　に
係助(取立)　形動(ナリ・用)　係助(疑問)(係)　補動丁(ラ変・未)　助動(推・体)—(結)　副助(強意)　格助(場所)
僧都→尼君

おはしまし　ける　かな。　こ　の　上　の　聖　の　方　に、
動尊(サ四・用)　助動(詠・体)　終助(詠嘆)　格助(連体)　格助(連体)　格助(連体)　格助(場所)
僧都→尼君

源氏の中将　の、　瘧病まじなひ　に　ものし　給ひ　ける　を、
格助(主格)　格助(主格)　格助(目的)　動(サ変・用)　補動尊(八四・用)　助動(過・体)　格助(対象)
僧都→光源氏

ただ今なむ　係助(強意)(係)
聞きつけ　動(カ下二・用)
侍る。　補動丁(ラ変・体)—(結)　僧都→尼君
いみじう　形(シク・用・ウ音便)
忍び　動(バ上二・用)
給ひ　補動尊(八四・用)　僧都→光源氏
けれ　助動(過・已)
ば、　接助(順確)
知り　動(ラ四・用)
侍ら　補動丁(ラ変・未)　僧都→尼君
で、　接助(打消)
ここに　格助(場所)
侍り　動丁(ラ変・用)　僧都→尼君
ながら、　接助(逆確)
御訪ひに　格助(目的)
も　係助(類例)
まうで　動謙(ダ下二・未)　僧都→光源氏
ざり　助動(消・用)
ける。」　助動(過・体)
と　格助(引用)
のたまへ　動尊(八四・已)　→僧都
ば、　接助(順確)
「あな　感
いみじ　形(シク・終)
や。　間助(詠嘆)
いと　副
あやしき　形(シク・体)
さま　格助(対象)
を　格助(対象)
人　格助(対象)
や　係助(疑問)(係)
見つ　動(マ上一・用)　助動(完・終)
らむ。」　助動(現推・体)—(結)
とて、　格助(引用)
簾下ろし　動(サ四・用)
つ。　助動(完・終)
㉒「この　格助(連体)
世に　格助(場所)
ののしり　動(ラ四・用)
給ふ　補動尊(八四・体)　僧都→光源氏
光源氏、　動(ラ変・体)
かかる　格助(時)
ついでに　動(マ上一・用)
見　補動謙(ラ四・用)　僧都→光源氏
奉り　格助(連体)
給は　補動尊(八四・未)　僧都→尼君
む　助動(勧・終)
や。　係助(疑問)
世を　格助(対象)
捨て　動(タ下二・用)
たる　助動(完・体)
法師の　格助(連体)
心地　格助(連体)
に　格助(場所)
も、　係助(類例)
いみじう　形(シク・用・ウ音便)
世の　格助(連体)
憂へ　動(ラ下二・用)
忘れ、　動(ラ下二・用)
齢延ぶる　動(バ上二・体)
人の　格助(連体)
御ありさま　助動(断・終)
なり。　感
いで　動謙(ヤ下二・未)　僧都→光源氏
御消息　助動(意・終)
聞こえ　格助(引用)
む。」　動(タ四・体)
とて　動(ラ四・用)
立つ　助動(完・終)
音すれ　動(サ変・已)
ば、　接助(順確)
帰り　動(ラ四・用)
給ひ　補動尊(八四・用)　→光源氏
ぬ。　助動(完・終)
㉓あはれなる　形動(ナリ・体)
人を　格助(対象)
見　動(マ上一・用)
つる　助動(完・体)
かな、　終助(詠嘆)
かかれ　動(ラ変・已)
ば、　接助(順確)
こ
の　格助(連体)
すき者ども　係助(取立)
は　動(ラ変・体)
かかる　動(ラ変・体)
歩き　格助(対象)
を　副助(強調)
のみ　動(サ変・用)
し　接助(単純)
て、
よく　副
さる　動(ラ変・体)
まじき　助動(消当・体)
人を　格助(対象)
も　係助(類例)
見つくる　動(カ下二・体)
なり　助動(断・用)
けり、　助動(詠・終)

たまさかに　立ち出づる　だに、　かく　思ひのほかなる　こと　を　見る
形動(ナリ・用)　動(ダ下二・体)　副助(類推)　副　形動(ナリ・体)　格助(対象)　動(マ上一・体)

よ、　と　をかしう　思す。
間助(詠嘆)　格助(引用)　形(シク・用・ウ音便)　動尊(サ四・終)　←光源氏

❷❹さても、いと　うつくしかり　つる　児
接　副　形(シク・用)　助動(完・体)

かな、　何人　なら　む、　か　の　人　の　御代はり　に、
終助(詠嘆)　助動(断・未)　助動(推・体)　格助(連体)　格助(連体)　格助(資格)

明け暮れ　の　慰め　に　も　見　ばや、　と　思ふ
格助(連体)　格助(目的)　係助(強意)　動(マ上一・未)　終助(願望)　格助(引用)　動(八四・体)

心　深う　つき　ぬ。
形(ク・用・ウ音便)　動(カ四・用)　助動(完・終)